

2024 年度

エコアクション21 環境経営レポート



東邦車輛サービス株式会社



対象期間： 2024 年4月1日～ 2025 年3月31日



発行日： 2025年5月21日

目 次

項 目	ページ
ごあいさつ	2
環境経営方針	2
組織の概要	3
事業・製品の紹介	3
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	4
主な環境負荷の実績	5
環境経営目標及びその実績	5
環境経営計画の取組結果とその評価	6
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	10
緊急事態対応訓練	10
代表者による全体の評価と見直し・指示	11
これまでの環境活動の紹介	12

今年で設立58年目を迎えます。

今後もお客さまのニーズに応えることで、お使いの製品を長く安心して利用していただける企業を目指し挑戦を続けることで、社会に貢献していきます。



**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**

□ごあいさつ

当社はあらゆる車両のメンテナンスサービス工場として、車検・点検・修理をはじめ、特装車両部品の供給など、アフターサービスの充実を目指し、また、大型特装自動車の架装工事の専門業者として幅広い事業活動を通して、美しい環境整備に貢献できるように事業展開しております。

東邦車輛サービス株式会社

環境経営方針

■基本経営理念

私達は、自動車整備及び補用部品販売など全ての事業活動に於いて、従業員一人一人が環境保全活動に取り組み、地球環境の保護と環境にやさしい社会づくりに貢献します。

■環境行動指針

「基本経営理念」の実現のために、下記の方針により継続的な環境経営に展開します。

1. 環境に関する法規制及び当社が合意した取り決めに遵守します。
2. 環境負荷の低減を図り、事業活動において少資源、少エネルギーに努めます。
そのため、電気、水道、ガソリン等の削減活動の推進及びグリーン購入を推進いたします。
3. 化学物質使用量を把握し、過剰な使用を控え大気汚染の回避に努めます。
4. 資源とエネルギーの有効利用ならびに廃棄物の削減に対する環境目標を定め、目標達成のための活動を行い、定期的な評価と必要な是正を行います。
5. 整備技術の高度化に応え、車両整備で事故の予防や自動車環境負荷の低減に貢献します。
6. 全従業員にこの環境経営方針を含む環境教育を行い、環境への意識向上を図ると共に地球環境保全に貢献します。

制定日：2011年10月1日

改定日：2020年7月14日

代表取締役社長

福永 等

□組織の概要

更新日：2025年5月19日

(1) 名称及び代表者名

東邦車輛サービス株式会社
代表取締役社長 福永 等

(2) 所在地

本 社 大阪府泉北郡忠岡町新浜2丁目5番10号

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 業務部長 三木田 悟司 TEL：072-433-2401(代)
担当者 総務課 矢之高 誠也 FAX：072-433-2403

(4) 事業内容

各種自動車の点検・整備・架装及び特装車輛部品販売

(5) 事業の規模

売上高 1,132 百万円

		本 社
従業員	名	39 名
敷地面積	m ²	6,369 m ²

自動車整備士資格保有者 24名

(6) 事業年度

4 月 1 日 ～ 3 月 3 1 日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 東邦車輛サービス株式会社

対象事業所： 本 社

対象外： なし（全社対象）

活動： 各種自動車の点検・整備・架装及び特装車輛部品販売

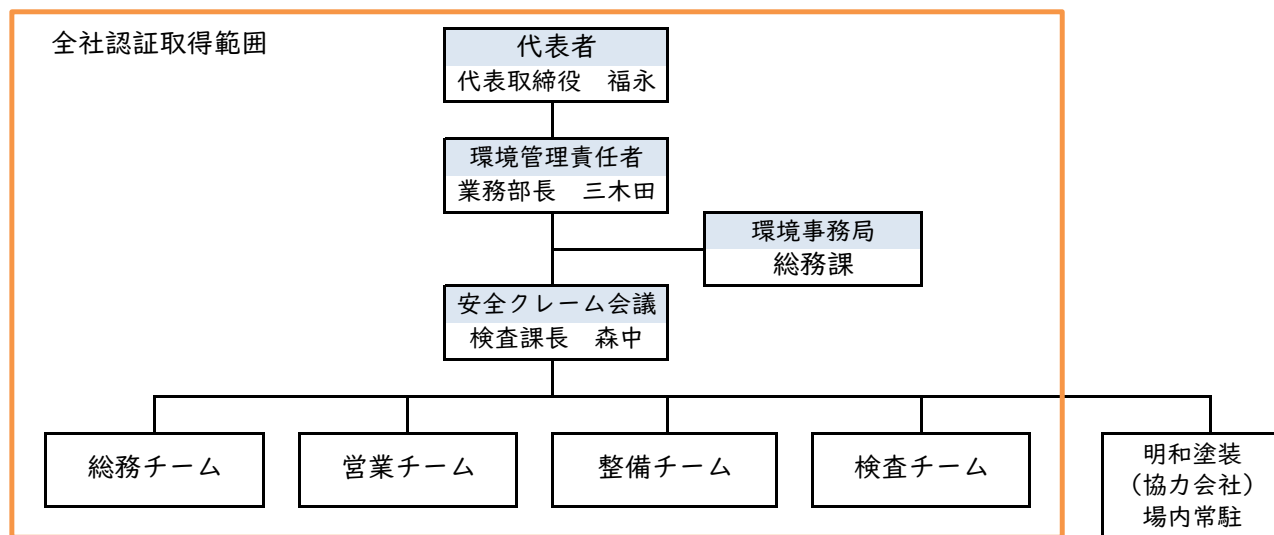


□事業や製品（商品）の紹介

当社は、国土交通省近畿運輸局の指定自動車整備工場のなかでも数少ない大型特装車両専門業者として、車検・点検・修理をはじめ、近畿圏内への東邦車輛製部品の供給などアフターサービスの充実を目指しております。

□環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日：2021年7月14日



	役割・責任・権限
代表者（福永）	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者（三木田）	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局（総務課）	・環境管理責任者の補佐、安全クレーム会議の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備え付けと地域事務局への送付）
安全クレーム会議	・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
チーム責任者（各課長、係長）	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2022年	2023年	2024年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	110,751	128,090	51,599
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	5,595	6,340	6,515
産業廃棄物排出量	kg	66,992	67,225	69,524
総排水量	m ³	1,429	1,525	1,561

※二酸化炭素排出係数 0 kg-CO₂/kWh (2024年度 レジル株式会社の調整後の係数)

※2022・2023年度は二酸化炭素排出係数 0.494kg-CO₂/kWhを使用 (2022年度レジル株式会社の調整後の係数)

□環境経営目標及びその実績

年 度		基準値	2024年		評価	2025年	2026年
項 目		(基準年)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力の削減	kg-CO ₂	0	0	0	○	0	0
	kWh	153,785	152,247	162,217	×	152,247	152,247
	基準年度比	2020年	99%	105%		99%	99%
原単位	kWh/千円	0.180	0.178	0.143	○	0.178	0.178
燃料の削減 ガソリン・軽油・灯油	kg-CO ₂	36,910	36,172	50,923	×	36,541	36,541
	基準年度比	2020年	98%	138%		99%	99%
	原単位	kWh/千円	0.044	0.043	×	0.044	0.044
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	36,910	36,172	50,923	×	36,541	36,541
	原単位	kWh/千円	0.044	0.043	○	1607.806	1607.806
可燃ゴミの削減	kg	3,020	2,778	3,130	×	2,990	2,990
	基準年度比	2020年	92%	104%		99%	99%
	原単位	kg/千円	0.004	0.004	○	0.004	0.004
コピー用紙購入量の削減	枚	112,875	126,420	128,250	×	126,420	126,420
	基準年度比	2020年	112%	114%		112%	112%
産業廃棄物の削減 廃プラ・エレメント	kg	6,230	6,168	7,049	×	6,168	6,168
	基準年度比	2020年	99%	113%		99%	99%
	原単位	kg/入庫台数	2.06	2.04	×	2.04	2.04
水使用量の削減	m ³	1,389	1,375	1,561	×	1,375	1,375
	基準年度比	2020年	99%	112%		99%	99%
	原単位	m ³ /入庫台数	0.460	0.456	×	0.456	0.456
化学物質の適正管理	行動目標 (次項による)						
事故の予防と自動車環境 負荷の低減	台	3,018	3,471	3,349	×	3,350	3,350
	基準年度比	2020年	115%	111%		111%	111%
整備技術の高度化	行動目標 (次項による)						

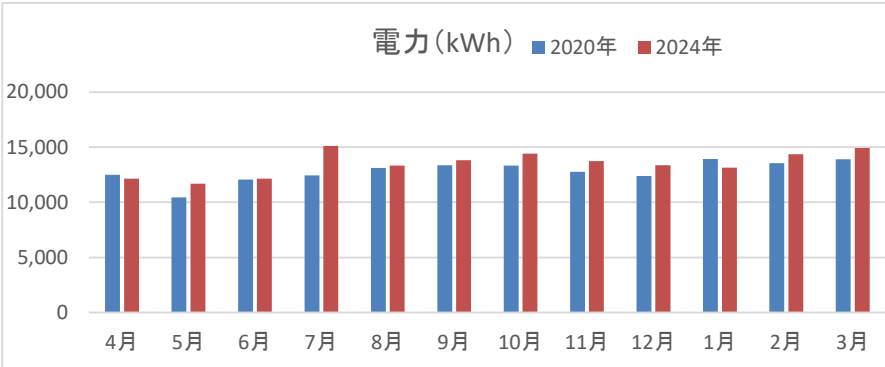
※LPGは少量のため削減目標としていません。

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

数値目標：○達成 ×未達成

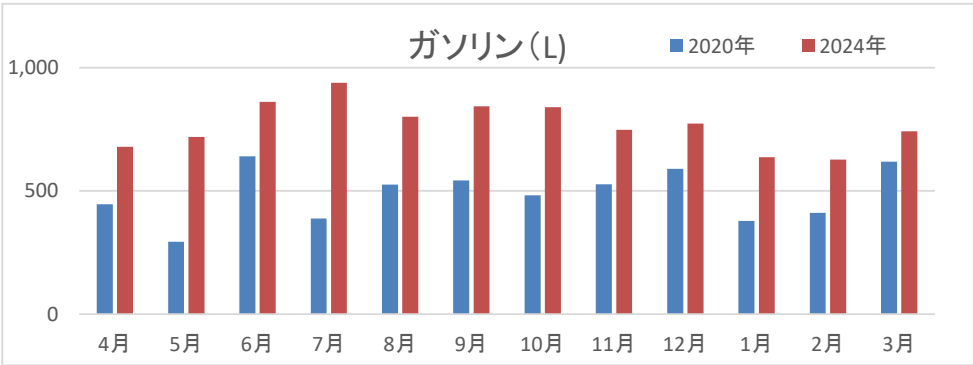
活動：◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	電力使用量は、目標値比 107%で達成することが出来ませんでした。電力会社のカーボンフリー特約を適用したことで、電力の使用による二酸化炭素排出量は 0 kg-CO2となりました。 売上高増加（昨年度比 111%）により、作業時間、電力使用量が増加したと思われます。売上高原単位では目標比 80%となり目標を達成することができました。
不要照明の消灯	△	
コンプレッサーのエア漏れパトロールの実施	○	
空調設備の温度設定(冷房28℃、暖房20℃)	△	
照明をセンサータイプに切り替え	×	
クレーム作業の削減	△	

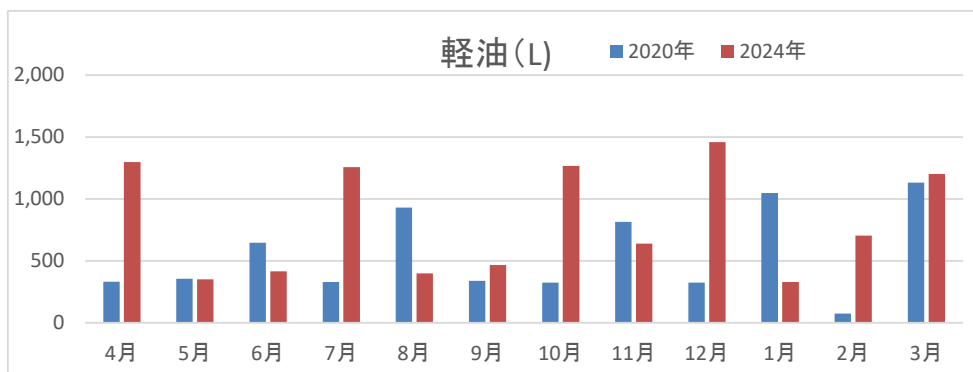


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	12,495	10,443	12,052	12,455	13,132	13,355	13,325	12,775	12,389	13,918	13,557	13,889
2024年	12,143	11,687	12,157	15,115	13,340	13,808	14,428	13,744	13,349	13,143	14,370	14,933

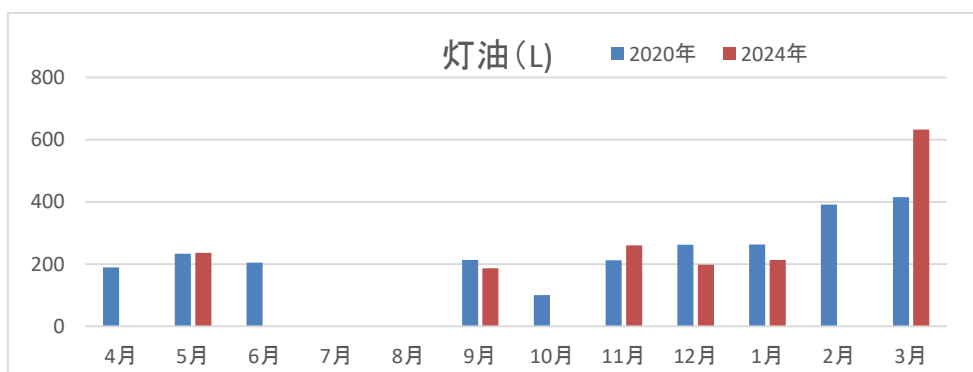
燃料の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	目標比 141%で目標未達となりました。全体使用量が約5,744L増加、二酸化炭素排出量が約14,751kg-CO2増加となりました。 顧客訪問活動の増加や入場台数増加に伴う顧客への車両貸出及び顧客の車両納車引取の増加により、ガソリン、軽油の使用量は 約2,983L増加しましたが、灯油の使用量は減少しました。 今後もエコ運転は継続していきましょう。 来年度は、基準年度比 99%を目標とします。
エコドライブの教育	○	
社有車のタイヤ空気圧の定期点検	○	
スチーム洗車の時間短縮	○	
低燃費車への乗換えを積極的に行う	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	446	294	640	388	526	543	482	527	590	379	410	618
2024年	679	720	862	938	802	843	840	747	773	637	628	742

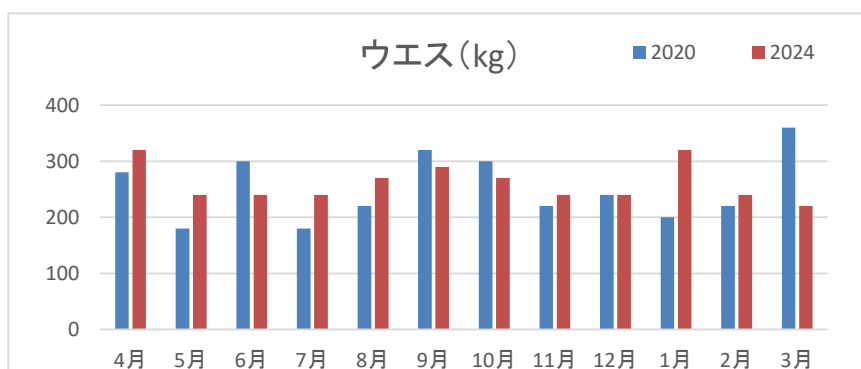


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	333	356	647	329	931	339	324	814	326	1,049	74	1,133
2024年	1,297	351	416	1,256	400	467	1,267	639	1,458	329	705	1,203



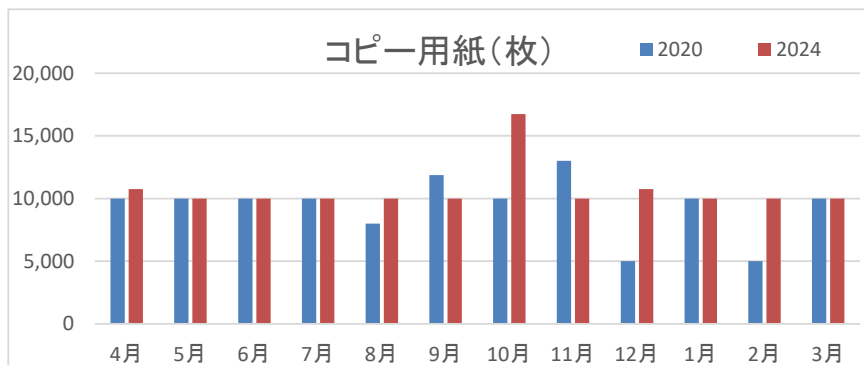
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	189	233	205	0	0	213	100	212	262	263	391	415
2024年	0	236	0	0	0	187	0	260	198	213	0	632

可燃ゴミの削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	目標比 113%で目標値を達成することができませんでした。昨年度より作業量が増加し消費量が増えましたが、無駄使いを無くすという意識は定着していると思います。来年度の目標は、基準年度比 99%を目標とします。
再利用の推進	○	
無駄遣いをなくすための意識づけ	○	



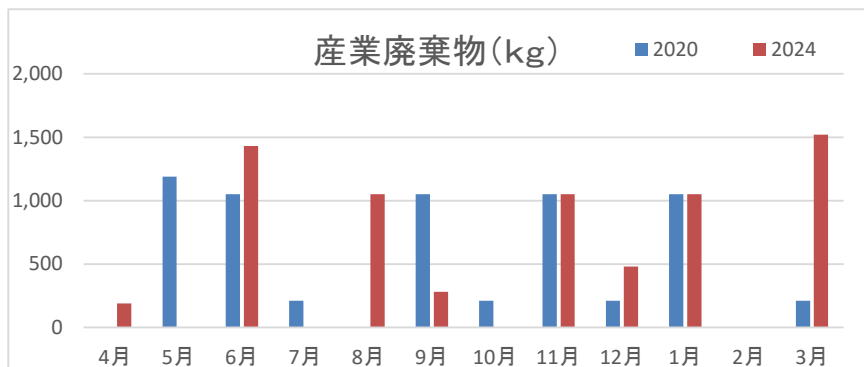
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	280	180	300	180	220	320	300	220	240	200	220	360
2024年	320	240	240	240	270	290	270	240	240	320	240	220

コピー用紙購入量の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	目標比 101%、目標値比 約 1,830枚増加で達成することができませんでした。 発注システムの仕様変更ができなく、昨年度と変わらない紙の使用量となりました。 来年度は基準年度比112%を目標とします。
配布資料を紙からデータへの切替検討と実施	○	
裏紙の活用	○	
両面コピー、Wコピーの活用	○	



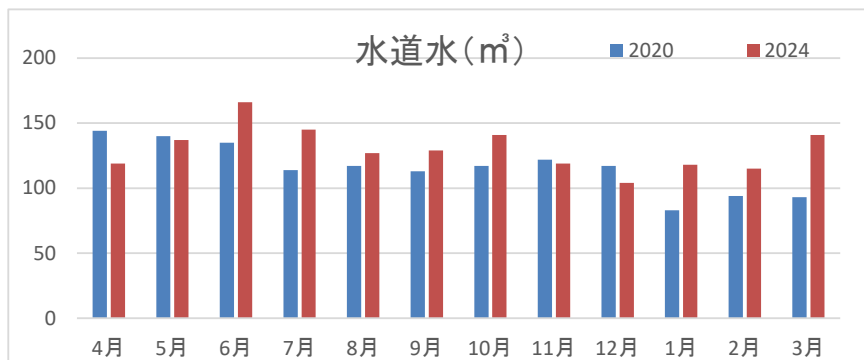
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	10,000	10,000	10,000	10,000	8,000	11,875	10,000	13,000	5,000	10,000	5,000	10,000
2024年	10,750	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	16,750	10,000	10,750	10,000	10,000	10,000

産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	今年は架装工事の増加により、目標比 114% (約 +881kg) 増加、入庫台数原単位でも 103%増加となりました。 来年度も今年度と同様の仕事量となる見通しであり、基準年度比 99%を目標とします。
混合ゴミの分別による減容	△	
作業ミスによる廃材の減容	△	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	0	1,190	1,050	210	0	1,050	210	1,050	210	1,050	0	210
2024年	190	0	1,430	0	1,050	280	0	1,050	480	1,050	0	1,519

水使用量の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	仕事量の増加により、6月以降累計で目標値を達成することができませんでした。㎡原単位も未達成となりました。 来年度も今年度と同様の仕事量となる見通しであり、基準年度比99%を目標とします。
効率の良い洗車方法の指導	△	
手洗い時等節水の励行	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	144	140	135	114	117	113	117	122	117	83	94	93
2024年	119	137	166	145	127	129	141	119	104	118	115	141

事故の予防と自動車環境負荷の低減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	一部の既存顧客が他社にて整備することになり、目標台数比 122 台、前年比 203 台の減少となりました。 新規顧客の獲得と既存顧客の継続に取組んでいきますので、来年度は、基準年度比 111%を目標とします。
環境負荷の低減に沿った点検の実施	○	
新規顧客を開拓し入庫台数の増加を図る	○	
顧客に予防整備を推進し売上増加を図る	○	



整備技術の高度化	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
設備投資	○	13名の整備士が特定整備主任を取得しています。 設備投資や特定整備のPRIは、時間も費用も必要なので慎重に確実に取り組みます。
特定整備のPR	×	
架装物の定期点検	○	



化学物質の適正管理	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	—	塗装用シンナーの使用量は 299kgでP R T R法は非該当です。部品洗浄機で使用している洗浄液に含まれているノナンの使用量は39kgでP R T R対象物質です。適正管理に努めます。
PRTR法の順守、届け出	—	
化学物質の保管方法の適正化	○	
保管場所、盗難防止、防火管理、数量管理	○	



社会貢献	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
毎月1度の全社員による地域清掃	○	毎月の行事予定に一斉清掃日を決めて、社員全員で会社周辺の清掃活動を実施しています。

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
道路運送車両法	自動車整備事業者
優良自動車整備事業者認定規則	自動車整備事業者
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（金属クズ、廃プラ、廃ガラス、廃油等）
騒音規制法・振動規制法	コンプレッサー、送風機（局所排気装置）
労働安全衛生法	特定業務健康診断、SDS評価
P R T R 法	トルエン
大阪府生活環境の保全等に関する条例	トルエン
自動車NOx・PM法	重点対策地域での排出基準
消防法（危険物）	シンナー、塗料の保管
フロン排出抑制法	業務用空調機、エアドライヤ
その他	忠岡町指導、親会社（東邦車輛）指導、顧客要望

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要望等

顧客、地域住民からの苦情などはありませんでした。

□緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日： 2024年5月21日（火）	■実施場所 本 社
■参加者： 総務課 3人 部品課 6人 整備部 28人 協力業者 4人 計 41人	
■実施内容： ☒ 通報訓練 ☒ 消火訓練 ☒ 避難訓練 架装工場で溶接中の火花がウエスに引火して建屋が延焼することを想定した総合訓練の実施	
■評価： 問題なく迅速に対応できました。	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
■実施状況の様子	
	
	

緊急事態の想定： 地震の発生	
■実施日： 2024年11月21日（木）	■実施場所 本 社
■参加者： 総務課 3人 部品課 4人 整備部 27人 協力業者 4人 計 38人	
■実施内容： ☐ 通報訓練 ☒ 消火訓練 ☒ 避難訓練 地震災害に際し、自身の安全確保、避難誘導、初期消火を想定した訓練の実施	
■評価： 問題なく迅速に対応できました。	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
■実施状況の様子	
	
	

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日： 2025年5月21日

【前回の指示への取組結果】

前回見直し指示は特にありませんでした。
経営の課題とチャンスについては方針5.で、2020.7.14に改定済み。環境経営計画にも反映済。

<情 報>		<見直し・指示>
◇自社を取り巻く環境問題の変化 (社会的情勢、利害関係者の要求等) ・ 特定整備への対応 ・ 自然災害を受ける可能性が高い		◇環境方針 整備技術の高度化に応え、車両整備で事故の予防や自動車環境負荷の低減に貢献します
◇環境経営目標・計画の達成状況 ・ 安定した需要がある。 ・ 全車種の整備に対応でき、法定点検等による整備を行うことで顧客に貢献できる		◇環境経営目標・環境経営計画 ・ 事故の予防と自動車環境負荷の低減 ・ 整備技術の高度化
◇その他 ・ 利害関係者からの苦情・要請等 ・ 環境上の問題点等		◇実施体制他

従業員の活躍により売上高は前年よりも大きく増加することができました。その反面、人手不足の影響は解消されていないのが現状です。

営業訪問活動の強化、貸出車両や自車での納車引取りの増加により燃料の使用量が大幅に増加し、燃料の二酸化炭素排出量は昨年比 +7,910kg-CO₂となりました。売上高当たりによる原単価でも、目標を達成することができませんでした。

電力使用量も増加しましたが、電力会社のカーボンフリー特約を適用したことで、電力の使用による二酸化炭素排出量は 0 kg-CO₂でした。

今後も、二酸化炭素削減等、環境への負荷低減に全員で取り組んでいきます。

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☒ 変更なし	☐ 変更あり
実施体制他	☒ 変更なし	☐ 変更あり

□これまでの環境活動の紹介

2017年	・C02削減ポテンシャル診断の実施 低炭素エネルギー技術事業組合より8項目の改善事項を提案して頂きました。現在もこの提案事項を主体に計画的に取り組んでいます。 ・事務所の蛍光灯をLED照明に切り替える 事務所の蛍光灯70本をLED照明に切り替えることで年間3,700kWhの電力を削減することができました。	 
2018年	・工場の水銀灯をLED照明に切り替える 工場の天井照明、投光器65本をすべて水銀灯からLED照明に切り替えることで、年間約50,000kWh(75%)削減できました。 ・変圧器(キュービクル)を入替える 親会社が使用していた容量の大幅大きな変圧器を譲り受け使用していましたが、老朽化に伴い当社の規模に合った変圧器にすることで年間約14,000kWh(65%)削減できました。	 
2019年	・全てのエアコンを分解クリーニングする フィルターの掃除は従業員で定期的に行っていましたが、一度も実施していなかったエアコンの分解クリーニングを依頼しました。消費電力が10%~25%減少することが実証されています。	
2020年	・部品倉庫の蛍光灯をLED照明に切り替える 今まで照明が部品棚の真上に取り付けられていたため通路が暗く危険でした。今回、照明の位置をずらし、さらにLEDライトに変更しました。通路が非常に明るくなり部品の出し入れが安全に効率よく出来るようになりました。	
2023年	・フォークリフトをバッテリー式に切り替える 数年調子が悪かったフォークリフト(ディーゼルエンジン)をバッテリー式のフォークリフトに買い替えました。以前よりも静かで小回りも効き、環境にも良くなりました。	